

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> 一般国道161号 <sup>あらかち</sup> 愛発除雪拡幅	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b> 自：福井県敦賀市 <sup>つるが ひきだ</sup> 疋田 至：福井県敦賀市 <sup>つるが だぐち</sup> 駄口	<b>延長</b> 4.5km	
<b>事業概要</b> 一般国道161号は、福井県敦賀市から滋賀県大津市に至る延長約110kmの幹線道路で、福井県嶺南地域と滋賀県湖西地域を結び広域交流を図るとともに、地域の重要な生活道路としての役割を担っている。 愛発除雪拡幅は、一般国道161号の冬期の安全で円滑な通行の確保、災害時の迂回解消を含む走行時間短縮等、幅員狭小区間の解消等を目的に計画された道路である。		
H15年度事業化	都市計画決定	—
全体事業費	81億円	事業進捗率
		約30%
		供用済延長
		—
<b>地域の防災面の課題</b> ・当該区間の降雪量は秋田市や山形市に匹敵し、累計積雪深は年4mを超過。 ・平成23年1月の豪雪では、国道8号、国道161号で通行止めが発生し周辺地域に多大な影響。 ・国道161号福井・滋賀県境付近には、大型車のすれ違い不能な幅員狭小なトンネルが存在。		
<b>課題を踏まえた対策・事業内容</b> ・積雪等による通行止めを回避するため現道に堆雪幅設置等の対策を行い、大型車すれ違い不能のトンネル区間（延長60m）については、新たなトンネルを整備する計画。 ・大型車すれ違い不能なトンネル区間については、当該区間は降雪量の多い地域であり、コスト面からも立体化等ではなくトンネル構造とした。		
<b>事業の効果等</b> ○災害時の迂回解消を含めた走行時間の短縮等 （112億円（残事業=112億円）） ○災害による被害の回避 ・降雪時の交通安全向上 ○地域住民の不安感の解消 ・安心感向上（116億円）	<b>費用</b> （残事業）/（事業全体） 63 / 89億円 事業費： 46 / 72億円 維持管理費： 17 / 17億円	
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 福井県知事の意見： 愛発除雪拡幅の対応方針（原案）「事業継続」については異存なし。事業実施に当たっては一層のコスト縮減に努め、疋田トンネル区間について、平成26年度の降雪期までの供用を図ること。		
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 審議の結果、「国道161号愛発除雪拡幅」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針（原案）のとおり「事業継続」でよいと判断される。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 一般国道161号事業区間は、秋田市や山形市に匹敵する降雪量であり、平成23年1月の豪雪では、国道8号、国道161号で通行止めが発生。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成15年度に事業化し、平成16年度から工事に着手しており、現在、用地取得は約26%。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 引き続き事業を継続し、平成26年度の疋田トンネル区間0.5kmの開通を目指す。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 事業実施にあたり、トンネル工法の見直しや新技術・新工法の活用等により、コスト縮減に努める。		

対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

- ※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。
- ※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。

## 再評価結果(平成23年度事業継続箇所)

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b>	一般国道161号 <small>あらか</small> 愛発除雪拡幅	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b>	自：福井県敦賀市疋田 至：福井県敦賀市駄口	<b>延長</b>			4.5km

**事業概要図**

**【位置図】**



**【概要図】**

